

- 議長（河野） 3番、浜口清海君。
- 3番（浜口） はい、議長。3番、浜口清海でございます。
- 議長（河野） はい。浜口君。
- 3番（浜口） はい。
- 3番（浜口） 3番、浜口清海でございます。一般質問をさせていただきます。ゴミの減量化について、述べさせていただきます。

「ゴミの減量化こそ地球等環境にやさしい取組み、香川県下一ゴミの少ない町を目指して」。

最近では、ご存知の通り、ゴミの減量化についてはですね、世界的な問題、地球温暖化等が大きな問題です。ゼロ炭素社会、気候変動による災害の大型化、多発化、甚大化とマスコミ等を大きくにぎやかしておるのが現状です。

そのような危機的な状況の中、振り返りまして、我が町として、どのように取組むべきか。それは、この本町、住民生活課だけでなくですね、町民の皆様の協力をいただいてこそ減量化ができると思います。

そのためには町民の皆様とともに、また実行できる、そして簡単で、優しくて、楽しい脱炭素社会を目指せばというふうに思っております。

まず第一に、ゴミの減量をすることが、地球温暖化対策、脱炭素社会への対策だというふうに思っております。香川県下、17市町村ありますが、綾川町の1人当たりのゴミ排出量は725グラムとなっております。

これはですね、非常に健闘しておりまして、県下第3位の少なさと健闘しております。この県下第3位というゴミの排出量の少なさは、本町の取組み、また、さらには住民生活課の貢献と頑張りがあったこそだと思っております。

しかしながら、今後はさらに取組みを強化し、この町の方々に呼びかけ、ゴミの減量化の協力を要請し、県下1位を目指してはいかがでしょうか。

参考資料ですが、全国平均1日1人当たりの排出量は、890グラムです。香川県下は、平均しますと851グラムです。

これは全国平均7位の、非常に香川県全体としても、取組みがいい傾向にあります。17市町村の中ではですね、まんのう町、これが1位で549グラム、三豊市が631グラム、我が町綾川町は724グラムと3位で健闘しています。

参考のために、高松市は871グラム、琴平町は1,231グラム、小豆島町が一番最悪で、1,443グラムの数字になっています。これは香川県の森林環境部の2021年度の数字です。上記の資料にある通り、ゴミ排出量の少なさでは、県下第1はまんのう町で綾川町との差は、175グラム。パーセンテージでいきますと24.2%の差があります。

その減量が必要となります。ではその差、その減量をどのように取組むかが、今後の課題だと思っております。綾川町でもゴミの収集量の中で一番多いのは、可燃

ゴミで、1日当たり518グラムです。その可燃ゴミの中では、生ゴミが40.2%、その次に多いのは、紙類の28.5%ということで、減量化に向け、効果的なのは生ゴミと紙ゴミを減らすことだと考えられます。

以上の課題、提言に基づき、三つの質問をさせていただきます。

まず第1、一つ目です。「楽しくコンポストを利用して生ゴミを有機肥料に。もっとコンポストの利用普及をアピールしては」。

コンポストの使用については、町民に対してもっと使用をしてもらえるように、使用方法を説明し、理解をしてもらえるようにアピールをしてはどうでしょうか。

また、昨年令和4年度のコンポスト購入補助制度の利用は11台と、とても非常に少ないのが現状です。コンポスト購入補助制度の補助率は現行の50%ですが、100%全額補助をして、もっと普及を図るべきではないでしょうか。

参考資料としてコンポスト代金は平均しますと4,700円、綾川町の可燃ゴミの処理費kg当たり8円75銭の費用がかかっております。

例えばこれ例を出してますけども、これ11月私全部生ゴミをとりますと、1日当たり520g、1カ月、15.6kgでした。これは生ゴミだけです。他の草とかですね、プラスチックとか紙類は含んでおりません。

これ4,700円で割りますと、2.87年かかるということで34カ月で償還できます。さらに言えば、生ゴミは水分保有率が高いため、実際にはもっと高い効果があると思われれます。そしてより早い償却ができます。通常生ゴミの水分保有率は82%というふうに言われてます。生ゴミがゼロになれば、紙類、プラスチック類、これは逆に言えば燃料になりますんで、燃えやすくなります。

それで生ゴミを焼却するとき、石油石炭の化石燃料を投入する必要はありません。これも環境にやさしい方策だと思います。一応参考のために、試算しますと、現行の普及率が仮に20%だとします。今後、町民のコンポストの利用は70%、5割現行の町民が町民の方々が、やっていただくと、計算式で計算しますと、年間951万の減額と、生ゴミをコンポスト入れるだけでこれだけの金額が大きく町の財政に寄与できると思います。

個人的な話でまた恐縮ですが、私は、コンポストを今、現行利用してますが、何の問題もなくですね、生ゴミをコンポストに入れ堆肥にし、その堆肥をちっちゃな畑ですけども、肥料にして使用し、無農薬野菜をほんの少しだけ栽培してます。

これ非常に楽しい生活で、エコ社会に順応した生き方で、町民の方にもご理解いただけるように、これからいろいろとアピールしてはいいかと思っています。

二つ目です。2番目に大きい紙類、「新聞、雑誌、包装紙等を古紙に。リサイクルの推進、郵便封筒、ティッシュペーパーの箱、ビール6本入りカートン、

お菓子箱の再生利用」ということで、現行、日本のリサイクル率は95%以上を段ボールと新聞については利用されていますが、住民の方も協力いただいていると思いますけども、今後は、それ以外にも、ビールの6本入りカートン、これも紙です。ティッシュペーパーの箱、これも紙です。それとお菓子の箱、内箱、外箱すべて紙です。これをですね、リサイクル、再利用、段ボールの中に入れて、新聞紙の中に入れて、再利用を町民の方々に理解をいただき、協力してもらう必要があるのではないかというふうに思います。

今後、段ボール、新聞紙等、紙類のリサイクル推進、拡充を本町としてどのように取組みますか。これが二つ目のご質問です。

3番目です。「剪定ゴミ、草木の伐採ゴミの再利用、堆肥化を」。

以上の通り、可燃ゴミの占める割合の高い生ゴミと紙類の減量化について述べましたが、ゴミの収集場で、もう一つ大きく目につくものがあります。それは雑草、剪定、伐採の草木ゴミです。

現状草木ゴミはかなりの量と重量があり、そのゴミの減量化が必要だと感じております。これも私事で恐縮なんですけど、11月、私の庭近くの道路、雑草を刈りますと、6キロありました。我が家は2人ですので、それを試算すると、例えばすべての伐採草木等のゴミを堆肥化、リサイクル化すれば、計算しますと732万の町費の減額となります。

以上の通り、堆肥化、草木ゴミの堆肥化することで、大きな金額の費用を減額できます。今後、堆肥場の拡大、拡充はどのように計画されておりますか。

そういうことで、この三つの質問をさせていただければと思います。

以上でございます。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） 浜口議員のご質問にお答えをいたします。

現在の綾川町は、香川県内3位のゴミの排出量の少なさとなっており、県内1位を目指すことは、現在取組んでおります地球温暖化対策、またSDGsにも関連しており、ゴミの減量化は喫緊の課題であると考えております。

綾川町一般廃棄物の処理基本計画におきまして、平成24年度を基準として、令和11年度までに、15%削減する目標を掲げ、分別収集の徹底や、3R（リデュース、リユース、リサイクル）この周知啓発、食品ロスの削減の取組みを進めているところで、ゴミの減量化に努めてまいります。

この3Rを進めることで減量化に進めてまいります。

1点目の、「生ゴミの減量化をするためにコンポストの無償化について」は、

この生ゴミ処理機は、植物残渣などの生ゴミの減量化に役立ち、できた堆肥は畑やプランター等で利用できるものであります。

しかしながらですね、近年のコンポスト等の補助金申請者は、ご質問にありましたように10件程度であり、コンポストの設置が難しい住居環境や堆肥を活用しない家庭が増えていると考えられますので、ご提案のコンポストの無償化については、現在のところ考えておりません。

2点目の、「ダンボール・新聞等の紙類のリサイクルの推進をどのように取組むかについて」であります。資源ゴミ、古紙としては、各地区、毎月1回の回収を行っております。

近年は民間事業者の古紙回収ステーションも町内2カ所あり、町民の古紙の排出及び可燃ゴミの減少につながっているものと思われ。古紙回収については、リサイクルができる紙が決まっております。リサイクルができる紙については、古紙として排出してもらえよう、排出方法の周知・啓発と関係団体と連携した環境学習等を活用しながら、リサイクル古紙の増加及び可燃ゴミの減量化に努めてまいります。

次の3点目の、「草木・伐採ゴミの再利用・堆肥化の取組みをどのように計画しているか」についてであります。令和2年度から、主に町道などの維持管理から排出された草木を堆肥化しており、令和4年度からは、町有施設のすべてを対象として実施をしております。

また、できました堆肥は町民の方へ無料配布し、概ね好評を得ておるところであります。しかし、町民の方々が排出する草木や剪定ゴミ等を堆肥化事業で受ける場合には、堆肥場とする場所や管理運営体制が必要となること、また受入れることによる、生産量の増加に伴う経費負担や品質向上の課題などがあります。

今後、町内から発生する草木等の焼却処分を削減し、堆肥化ができるように、課題解決に向けて進めてまいりたいと、そのように考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、議長。

○議長（河野）浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）ご答弁ありがとうございました。

我が町の、本町の取組みは住民生活課を含めて熱心に取組んでおり、3位とはなっておりますが、もう一段目指して、まんのう町、三豊市に、宣戦布告するというぐらいの気持ちで取組んで、住民を巻き込んで、楽しんで、ゴミの減量化に取り組むと。

本町の取組みは非常に進んでおると思いますが、やはり住民の協力なくして、ゴミの減量化はなしと、住民の方々に、綾川町の取組みが現在3位やよということを知っとる町民がどれほどおるか。

これほど頑張るとるのに、1番になろうじゃないかと、それだけの呼びかけをした人がどれだけいるか。やはり、私思いますのに、「競争なくして進歩なし。行動なくして成果なし。」、やはり競争があるところに進化があるというふうに思ってます。その辺りいかがお考えでしょうか。以上です。

○議長（河野）緒方住民生活課長。

○住民生活課長（緒方）議長。

○議長（河野）緒方君。

○住民生活課長（緒方）浜口議員さんの再質問にお答えいたします。

我が町が県内3位のゴミの排出量の少なさの直接な原因についてはちょっと分析も十分にできておらず、はっきりした原因はわからない状況ですが、人口減と高齢化は要因の一つではないかと考えております。

町民の方にもこの3位ということをしっかりアナウンスして知っていただいて、また一人ひとりが、ゴミをゴミにしない資源にできるように認識してもらって、それを実行してもらい、それを持続してもらい、循環型社会の実現につながっていくと思われまますので、しっかりと周知・啓発をして、認識を深めていきたいなと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、再々質問させていただきます。

○議長（河野）はい、浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）ご回答ありがとうございます。

やはり先ほどご説明いただいた通り、非常に真摯な取組みですけれども、やはり競争なくして進化なし、やっぱりまんのう町、三豊市に、行く機会も作られて、現状認識をもっとされて、やはり立派な成果を上げられてますんで、今後、まんのう町、三豊市を抜くことが可能だと思いますんで、また一緒に、これ呼びかけですけれども、競争して、よりよい社会をよりよい、住みやすいまちを目指してやればと思います。要望です。宣戦布告が要望です。

○議長（河野）はい。要望として承るということで。

○議長（河野）以上で浜口君の一般質問を終わります。

○3番（浜口）どうも。